

# 希望郷いわて国体冬季大会を振り返って

## 盛岡市

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会盛岡市実行委員会 会長

盛岡市長 谷藤 裕明



成年男子500m、1000mで3位の池田晋一朗選手

21年ぶりの完全国体の幕開けとして、希望郷いわて国体冬季大会が関係する機関、団体等の御理解と御協力のもと、無事開催できましたことに厚くお礼申し上げます。

岩手県勢は冬季大会終了時点で天皇杯第4位となり、1988年以降の2巡目国体の中では最高の成績となり、本大会に弾みをつく幸先の良い結果にとっても嬉しく思っております。また、選手の活躍は岩手県民、盛岡市民に大きな感動と勇気を与えると同時に、本大会での活躍を目指す他の選手にとっても良い刺激となるものであり、来る本大会に向けて大いに奮起し、活躍していただくことを期待しております。

冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催期間中は競技関係者はもとより市民やボランティアが一丸と

なって大会を支えていただきました。また、選手、監督への記念品として「さんき踊りとふっちストラップ」を贈呈するとともに、地元食材を活用したおふるまいの提供や選手への応援メッセージが書かれたのぼり旗を飾ったことが大変好評でした。全国から訪れた多くの方々を歓迎するムードにあふれて、あらためて国体が地域の魅力を発信できる大きな機会であると強く感じたところです。

本大会においても盛岡を訪れるの方々をおもてなしの心でお迎えし、盛岡の魅力を伝え、「また盛岡を訪れたい」と思っただけよう強くアピールしていきたいと考えており、皆様の御協力を頂き、大成功に終るようこれからも準備を進めてまいりたいと存じます。



## 花巻市

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会花巻市実行委員会 会長

花巻市長 上田 東一



成年男子 岩手 vs 石川

希望郷いわて国体冬季大会アイスホッケー競技会は、1月27日から31日まで盛岡市アイスリンクや当市の石鳥谷アイスアリーナなど3会場で成年26チーム、少年13チームが参加して熱戦が繰り広げられました。

石鳥谷アイスアリーナでは、大会期間中に市内小学生・中学生の学校応援695人を含め延べ約4千人にご観覧いただき、「氷上の格闘技」といわれるアイスホッケー競技の醍醐味を十分堪能していただきました。

来場者へのおもてなしとして、大会期間中毎日、郷土料理の「ひつまみ汁」を振る舞い、29日には「花巻雑穀の日&ひえカレープロジェクト」に関する取り組みとして、市内学校給食とも連携し、「ひえカレーひつまみ汁」を提供しました。

また、会場には、東北有数の温泉郷である当市の雰囲気を感じ出すため、「足湯」を設置し、本場の源泉の湯を体感

していただきました。さらに、心温まる選手との触れ合いとして、八重畑小学校3年生が総合学習で取り組んできた「りんご丸かじり事業」で収穫した絵付けりんごを17チームにプレゼントしました。後日、選手団から感謝とお礼の手紙が小学校に届き、大会を通じて交流の輪が広がったことを大変うれしく思っております。

今回の希望郷いわて国体冬季大会アイスホッケー競技会は、多くの関係者の皆様のご協力により、大会運営そのものも順調に進み、一般来場者の方々にもたいへん喜んでいただけたものと思っております。

この流れを本年10月の希望郷いわて国体本大会や希望郷いわて大会につなげるよう、準備を進めてまいります。





## 八 幡 平 市

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会八幡平市実行委員会 会長

八幡平市長 田 村 正 彦



コンバインド少年男子で優勝した三ヶ田泰良選手

1995年に福島県で行われた「第50回国民体育大会 ぶくしま国体」以来21年ぶり7回目の完全国体となる、「東日本大震災復興の架け橋 第71回国民体育大会 希望郷いわて国体」の冬季大会スキー競技会が、2月20日から23日までの4日間、八幡平市内の3会場で開催されました。

岩手県では1970年「第25回国民体育大会 みちのく国体」以来46年ぶりの国体開催となりますが、冬季大会としては旧安代町を会場にスキー競技会が開催された2005年「岩手りんどう国体」以来、11年ぶりの開催となりました。

近年稀にみる雪不足により大会開催が危ぶまれておりましたが、陸上自衛隊岩手駐屯地並びに大会関係者による懸命なコース整備等により、無事に大会を開催することができました。全国各地から選手・監督をはじめ、大会関係者や多数の観覧者をお迎えし、盛会のうちに幕を閉じることができました。

これもひとえに、開催準備に携わっていただきました大会関係者の皆様、円滑な競技運営にご尽力いただきました競技役員の皆様、そして、おもてなしの心で大会を支えて

いただきました市民、関係団体の皆様のご協力の賜物と心より感謝しております。

大会期間中には、全国各地から集まったトップレベルの選手を応援するために小学生が作成した応援のぼり旗を各競技場に設置し、八幡平市内の特産品をふんだんに使った豚汁の振る舞いなど、市民総参加によるおもてなしを実施することができました。

また、スキー競技会開始式では、松川一宮太鼓の会が歓迎アトラクションで勇壮な演奏を披露、地元平館高校の生徒がプラカード係として選手を誘導し、ニュージーランド産の「あしろリンドウ」が彩りを添えるなど、八幡平市を広くPRするとともに大会の盛り上がりにつながったところです。

今回の冬季大会での盛り上がりや、10月に開催される本大会に向け、完全国体としての成功につなげられるよう、準備を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



## 二 戸 市

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会二戸市実行委員会 会長

二戸市長 藤 原 淳



ショートトラック成年男子1000mで優勝した村竹啓恒選手

二戸市が会場となったショートトラック競技は、完全国体の幕開けとして会期の初日から二日間開催しました。

大会直前には、日本列島が強い寒気と大雪に包まれ、交通が大混乱する中、シャトルバスの運行に支障の無いよう、会場周辺等の除雪を急ピッチで進め、参加者の皆様を無事お迎えすることができました。

2001年から正式種目となったショートトラック競技は、本県では初めての開催となり、会場が決定してから、希望郷いわて国体のスローガンである「広げよう感動。伝えよう感謝。」を実行するため、ゼロからショートトラック競技を勉強させていただき、選手の育成と実施本部の運営を行い、沿岸被災地の久慈市からも「おもてなし広場」にご協力をいただくなどして、復興支援への感謝を伝え

る交流を行いました。

二日間の競技会を通して、多くの観客が見守るなか、大会記録の更新や地元の村竹選手が県勢第1号として優勝するなど、選手からは大きな感動をいただき、大変な盛り上がりの中に、無事に競技が終了することができました。

今大会で、二戸市がショートトラック競技の運営ができるまでになったこと、育成や支援を行ってきた地元選手が最高の成績を残してくれたことを冬季大会の財産とし、来る本大会の成功に向けて「夢と感動を呼ぶオール二戸」で準備を進めて参ります。

結びに、本競技会の開催に御尽力いただきました関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

